

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2470501939		
法人名	合資会社 三重福祉会		
事業所名	グループホーム白山		
所在地	津市白山町南出954		
自己評価作成日	評価結果市町提出日	令和3年3月13日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaizokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&amp;JigvosvoCd=2470501939-00&amp;ServiceCd=320">https://www.kaizokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&amp;JigvosvoCd=2470501939-00&amp;ServiceCd=320</a>
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会		
所在地	津市桜橋2丁目131		
訪問調査日	令和 2 年 12 月 9 日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様の経歴や人生経験も、入居者様によって違っており、入居者様、家族様のお話をよく聞いて、苑での生活を楽しく過ごしていただくように努めることをモットーにしています。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は青山高原山麓の田園地帯に立地し、「のどかな風景でゆったりした時間を過ごしていただける」ことをサービスの特色としている。中庭を挟んで東西に平屋建て2ユニットで広々とした環境である。今年にはコロナ禍で感染防止対策として、ユニット間の行き来や、他ユニットの利用者との交流を中止している。事業所傍には地域住民で賑わう農産物直売所があり、従来利用者は職員と共に訪れて、買い物や地域の人達と交流を楽しみ活気を得ていたが、今年には中止している。家族の面会や外出等を制限し、限られた環境内で利用者が仲間と共に和やかに居心地良く過ごせるように、ユニット毎に利用者の特性を活かし、東ユニットは全員で歌を歌い、西ユニットはグループ毎にゲームをして、苑長と介護支援専門員を中心に全職員が工夫を凝らして日々取り組んでいる。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ユニットごとに、掲示しており、名札の裏にも挟んで全職員が理念を共有している。	事業グループの理念「人生の半分は自分の為に、後の半分は人(社会)の為に」と、事業所の全職員で決めた理念「地域の人と協力し、思いやりでもに明るく暮らせる苑」があり、リーダーは地域に事業所が役立つことは無いかと常に思索し職員に問いかけている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年はコロナウイルスで思うようにできませんでした。	戸外を散歩中に帰るのを拒んでいた利用者を、地元の人が車に乗せて事業所まで送って下さった。介護支援専門員は、日頃地元の県立病院の地域連携室の担当者に利用者の医療相談をし、助言や情報提供を得、先方からは利用者の入居相談や照会を得る協力関係を築いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	昨年は中学生の職場体験や見学もしていたのですが、今年は病気感染で出来ませんでした。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年1月頃に運営推進会議をした後、コロナの影響でできませんでした。	昨年までの運営推進会議は、地元自治会長・民生委員・市職員・包括支援センター職員の出席により開会されていた。今年度からは家族の参加も予定していたが、コロナ禍の為に開催することが出来なかった。5・9・11月に委員宛に文書にて事業所及び利用者の状況について書面で報告したが、意見等は出て来なかった。	運営推進会議のメンバーを固定せず、利用者が地域で生活する上で関わる広範な関係者(病院・消防署・警察・高校・給食センター・ボランティア等)に案内し、メンバーに意見を求め、運営推進会議を活かした取り組みをすることを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	いつもの様に運営推進会議で参加していたり、交流ができないので、わからない事や報告等は電話ですしています。	介護支援専門員は、支所介護保険課等の窓口に出向いて利用者の介護認定更新申請を代行したり、事故報告書を提出している。援護課のケースワーカーとは絶えず連絡調整を図り、利用者の生活支援を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マスク、手洗い、うがいその他感染防止に気を配り職員が集まって、虐待、身体拘束に関しての話し合いをしています。	毎月開かれる全職員出席の苑会議では、必ず身体拘束廃止について議題に上げ協議しており、ヒヤリハット事例を含めて議事録に記載している。グループ全体の代表者会議でも協議し、内容は全職員に伝達し周知を図り、特に言葉の拘束について注意を払っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	朝の申し送り時やカンファレンスの時に、虐待防止についての話し合いをしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	マスクをして職員と職員の間をとり、権利擁護、後見人制度について話し合っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に重要事項の説明を十分に行い疑問点や不安等を解消し、また納得してから契約していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置し意見や要望等を入れてもらえるようにしている。意見や要望等改善できるものがあれば改善している。	コロナ禍における利用者の面会の仕方について、事業所から家族へ文書で提案し、同意を得て実行している。家族より郵便で苦情の申し出を受けたことがあり、話し合いを実施して了承を得た。苦情等の窓口を設けて対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見箱を設置しており、匿名で意見を投函できるようにしている。内容に関し代表者、管理者、職員で話し合い全員が納得するまで意見交換している。	苑長兼管理者と介護支援専門員がリーダーであり、職員との関係性が密で、職員は何時でも意見や気づいたことは告げている。内容によって代表者会議で提示し協議することもある。コロナ禍での年末年始の過ごし方について、職員にアンケートを実施中で、運営に反映する予定。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	介護現場に顔を出して見学したり職員と会話したりしてコミュニケーションを図っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	苑としては、介護福祉士の勉強、講習にも参加し、受験していただけるように介護福祉士の講習パンフレットを配布して受講、受験を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	病気感染の予防のため他との交流は出来ない状態でした。最近になり同じ社内での交流や勉強会をするようになりました。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人様と面談し、本人が困っていることや不安なことを聞き取り調査する。また、マスクをしていただき施設見学、施設の生活における要望を聞いてサービス担当者会議で話し合い、ケアプランに反映できるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	自宅訪問などをして話を聞きまた、施設見学をしてもらい、不安、困っていることや、要望等を聞いてサービス担当者会議で話し合い、ケアプランに反映できるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様の身体状況を確認すると共にご家族様の意向と要望を確認してアドバイス等をしている。また必要があればその他の介護施設、保健施設等の入居申し込みを勧めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除や、台所で調理の味見をしてもらったり、洗濯物を干す手伝いや、おしぼり、清拭タオルをたたんでもらっています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様から色々な訴えを聞き、それに対してご家族様と話しをして、利用者様に一番良い方法を模索している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様と通院で外出する以外できるだけ外出は控えていただくようにご家族様に頼んでいます。	従来から掛かっていた医療機関に家族の協力を得て通院を継続している。理美容は、地元の理髪店より理容師が事業所に来てもらっている。利用者と職員は地元在住者が多いため、地域の伝統的な祭事等の話題が豊富である。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しないように職員が声掛けして、ゲームや職員も一緒に参加して少し昔の歌を歌って孤立しないように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設に入所されてもその後の状況等をうかがったり、必要があればご家族様からの相談をさせていただいている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様、ご家族様からの施設生活の希望や意向をケアプランに記入している。	利用者との日常会話の中で気づいた事があれば、会議で伝達したり、「申し送りノート」に記入して全職員に回覧し、情報を共有している。家族の思いや意向は、主に介護支援専門員が面会時や電話で伺っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様、御家族様と面談し、フェースシートに記載している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様、御家族様と面談し、心身の状態を聞き取ったり、介護保険の認定にかかる認定調査票、主治医意見書等の資料を請求しアセスメント表に記載している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にモニタリングを行い必要であればアセスメントを行う。また特に問題がなければ、サービス担当者会議を行い介護計画を作成している。	申し送りの際に全職員で利用者のモニタリングとサービス担当者会議を実施し、3ヶ月毎に評価をし記録をしている。利用者の心身状態等に変化が生じた際には、即時見直し評価をし計画の変更を実施している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画書に基づいて介護を行ったことを、個別記録に記載している。また朝夕の申し送りで情報を共有している。3ヶ月に1回ごと、介護計画を見直している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人様や御家族様の状況に応じて病院受診への送迎や付き添い等施設として出来ることをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くの野菜やお菓子販売所の前の花壇に利用者様と一緒に見に行きました。毎年行っていたボランティアの歌や踊り等は、コロナ感染予防のため行うことができませんでした。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に一度かかりつけのクリニックから往診に来てもらっている。また利用者様の身体状況に変化が見られた場合は、御家族様に連絡して受診往診等の承諾を得てから診察してもらっている。	家族の意向を伺い主治医を決め、全員が協力医に掛かり2週間毎に訪問診療を受けている。認知症・心臓・泌尿器等各専門医への受診は家族の協力を得て通院し、事業所から日頃のバイタル等の情報提供をしている。夜間緊急時は、地元の県立病院へ救急対応をすることが多い。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者様のバイタルチェック表に記載してある情報をおかかりつけのクリニックにFAXで送ったり往診の時も看護師の方に再度見てもらって助言してもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際、治療経過を御家族様やケアワーカーと電話で話を聞かせてもらっている。また病院に行き看護師やケアワーカーに退院後の相談を行い円滑に退院ができるように配慮している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約前、御家族様に重度化した場合施設で対応できる事やできないことを十分に説明している。終末期に対しての希望を聞き主治医、御家族様と話し合いをし、他の医療機関に紹介してもらったり他の介護施設に入所できるようにしている。	入居契約前に、重度化や終末期について説明している。利用者が事業所で共同生活が出来る限界として、食事の経口摂取が困難となった状態を目安としている。介護支援専門員は家族に利用者の状態を伝え、状態に応じて、外部の医療機関や他施設等への入院・入所に関する助言や情報提供を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	コロナ感染予防のため、消防署の参加なしで行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	等施設内のみで避難訓練を行っています。	火災を想定して、職員の緊急連絡網を発動し集合する訓練を実施した。災害に備えた食料と水の備蓄・排泄用品・冷暖房対策等備えている。旧デイサービスセンターの建物を活用して災害時に地域住民の受け入れを承認している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室でオムツ交換を行う際、居室をノックしドアを閉めてから、声掛けしてオムツ交換をしている。またトイレ誘導を行う際には、周りの人にわからないように声掛けする等の配慮をしている。	利用者と会話をする際の言葉使いに特に配慮をし、大声を出さず優しい言葉かけを心かけている。排泄の際にも細かな配慮がなされている。顔や髪、髭、爪、衣服の汚れや乱れ等、身だしなみにも配慮し、清潔保持を心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご自分で服を選んでいただいている。トイレや起床、就寝を自発的にしていただけるように声掛けしたり、また自分で決めていただくから介助している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	レクリエーションに参加したい方は参加していただく、また、掃除、散歩、昼寝をしたい方にはしていただき、常に利用者様の希望や個々のペースに合わせて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服を自分で選んでいただく。また施設に来ていただいた美容院の方に好きな髪形を自分で言っていたいただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様に野菜を切っていたり、おかずの盛り付け等をしてもらっている。片付けやお膳も拭いてもらっている。	食事の献立と材料の調達は業者に委託し、事業所で調理をしている。配膳は食堂で利用者と共に行うので、食事を楽しみにしている。農家から頂く旬の野菜料理が加わることもあり、誕生日や行事の際には献立を変更し利用者の好物を取り入れお楽しみ食となる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様の嚥下機能に応じた食事形態(普通食、全粥、一口大、刻み、トロミ付き、ミキサー食)を提供している。お茶、水等にトロミをつけてのんでいただくとき有。水分を取りたがらない方には1日数回に分けて飲んでいただく。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	見守り、介助で歯みがきをしていただいている。就寝時には義歯を洗浄液につけて寝てもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用して個別にトイレの声掛けや、トイレの移動、移乗介助する等の支援をしている。	入居当初、トイレでの排泄介助をこまめに行ったら、トイレで排泄する習慣が身に付いた利用者がいる。日中は職員が個別に声掛けをしてトイレでの排泄を支援し、夜間はおむつ対応をしている利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜類を多くしたりする工夫をしている。水分を多く摂取していただいている。歩ける方はあるいていただく。体操も参加していただく。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご本人の希望に沿って入浴できるように準備している。また入浴拒否があれば入浴する曜日を変えたりしている。	1日置きの前中を入浴日とし、利用者は週に2～3回入浴機会がある。浴室は個室でリフト浴もある。入浴を拒む利用者が、食堂で給仕をしていた職歴があり、入浴を終えた人にお茶を出してもらったら自然に浴室へ入り入浴した。庭に柚があり実を収穫して柚湯を楽しみにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	特に就寝時間を決めておらず、眠りたいときに寝ていただいたりしている。昼寝をしたいときは自由にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬品情報書ファイルがあり、常に職員が確認できるようにしてある。服薬の見守り、服薬の介助をして、服薬の確認をしている。また薬の変更があった場合は申し送りして報告し様子観察、異常があれば主治医に相談する。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力に応じた役割作りをし、台所のお手伝いや、花の水やりをされる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	新年の初詣に出かけたりしている。	コロナ禍で感染防止のため外出行事は中止しているが、事業所周辺の田舎道を散歩して自然の移ろいを満喫したり、事業所の中庭に出て皆で外気浴や談笑をし、ストレスを発散したり気分転換を図っている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人御家族様の依頼があれば、お金を預かり、買い物があれば買ってきている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族様に電話をしたいとの希望があれば、電話をしていただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間はバリアフリーになっており、廊下、トイレ、浴室には手すりがついている。コロナウイルスの事もあり、窓を開けるなど部屋の換気には気を付けている。	居室の中央に広くて明るい食堂兼ホールがあり、生け花で季節感を、壁面には利用者の作品を飾り和やかな雰囲気である。テレビの周囲に大きなソファをコの字型に配置し、利用者が自由に寛いでいる。廊下に洗面所とトイレを設置し、衛生面にも配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有部分のフロアにはソファが置いてあり自由に座って頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはTVが置いてある部屋があり、1人でテレビを見て楽しんでおられる。居室は個室になっていてプライバシーが守られている。	居室にはベッドと壁面埋め込み式のクローゼットがあり、整理整頓が容易に出来る。ベッド周辺に自宅から持ち込んだ用具をいっぱい配置し、自分で管理している利用者もいる。各々が居心地良く過ごせる環境を造り個性的である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各室のドアに名札がかけてあり、トイレや浴室にも分かるように表札を付けてある。		